

---

# 世界の終わりそしてはじまり

donki

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

世界の終わりそしてはじまり

### 【Nコード】

N1609Z

### 【作者名】

donki

### 【あらすじ】

23歳のライター、ガンザキはいつもと変わらない、生活をおくっていた、そこには目標もなく、夢もなかった、ただ淡々と生きていた。

ある日彼の生活が一変した。

永遠なんてあり得ない。

この世界に自分の住んでいる世界がなくなるなんてことを考えて生きている人間がいるのだろうか。

まーほとんどいないだろう、一部の学者、破滅論者ぐらいだろうか。世界がなくなる時、自分の大切なモノ、ヒトを同時に失うのだろうか。

誰にそんなことなどわからない。

でももしそんなことが現実には起こるとしたら、あなたは どうしますか？

EP・1

頭の上、遙か上を飛行機が通り過ぎる、乾いたどこか涼しい音が聞こえる。

空は広い、

決して届くことのないもの、触れることなどできやしない、そんな存在を見上げてる、それで見下されてる。

本当はあいつを見下してやるほど、高く高い場所にいきたい。そんな風に見上げてる。

ここは日本。詳しい場所は秘密。

アルバイトに向かう途中。

いつもと変わらない線路沿い、電車の本数は結構多いほうだ。でも僕は電車通勤じゃない。

信号で一時停止、周りにはしけた顔したサラリーマン、子供を連れた若い女、三人組の女子高生、ケータイの画面を直視しながら喋っている。

長い信号。

点滅が始まる、

この先に僕のバイト先がある。  
いつもの風景、変わらない空気、感覚。  
全てが毎日同じ、変わるものといえば、天気ぐらい。  
もうすぐ青になる、信号が変わる、  
変わる、何かが変わった、  
この時、僕のみている世界が変わった・・・

EP2.

周りの人間が消えた、

僕の周りから人間が消えたんだ。

訳が分からないかった、

恐怖がこみ上げてる、

不気味な寒気が背中を這いづりまわる。

走った僕はひたすら走り、バイト先へとかけ入った。

「前島さんっ、今道で人が、まっ前島さん？」

前島はそこにいなかった、店長であり僕とシフトが全てかぶってて、  
いつも勤務時間に遅れない、そんな前島さんがいない、

前島さんのケータイに電話を入れる、

留守電、

留守電

留守電。

何処に行ったの？

ケータイのニュースを見る、特にオカシナニュースは流れていない、  
何が起こった、全くわからない。

バイト先についてから3時間がすぎた、  
ツクツクボウシが鳴き始める。

孤独

孤独

そして恐怖。

何が起きてる

のだろうか。

グォーン

自動ドアが開いた、

誰だ、前島さん？

「すみません15番号のやつ一つ」

お客さん？

そこには若い、20代半ばに見える、女、

OL風の女が立っていた。

「いらつしゃいませー、はい15つじゅつ、15番で御座いますね、

お会計はー」反射的に答える。

はっ、とつさに我に返る。

「あっ、あのーすみません」僕は尋ねる。

「何ですか？」女が面倒そうに答える。

「今日なんかおかしくないですか？」

「はっ？、」女は呆れた感じで吐き返す。

「あっすみません」

いきなり女の表情が変わった。

そして

「あーそゆことね、ごめんごめん、いきなり人が消えたって言いた  
いんですよ」

「そっそうです、」

「みんな喰われたのよ、くわれたの、」

女が答える。全く平然としている。

喰われた？なにを言っているのだこの女は、

「あっあのー喰われたともうしますと？何が何だかあー」僕は訳が  
分からなかった、答えなんてどうでもよかった、ただ確認したかつ

た、今起きていることが現実なのかどうかって。

EP 2

喰う、すなわち、捕食。

ある個体が他の個体を食べる、自身のエネルギーとして取り込むという行為、

「喰われたって？何に？」

「新しい人間」「とでも言うべきかしら」女が自信げき答える。

「人間、それは在る世界を支配している存在に当てられる代名詞のことよ。さっきまでは私たちが人間だったの、でも今はちがうわ、」

「彼らが人間」

荒唐無稽なはなし、意味が分からない。

「何を言ってるんですか？」思考が絡まる。

「一部のやつらは知ってたの、自分たちが見ている世界の終わりを、そして新たな世界のはじまりを。

永遠なんてないのよ、

我々の一部は、教育されてきたのよ、ずっと選ばれしものたちは、世界の終わり、そして解決策、つまり生き残る方法」

「どういうことです？」

「君は知らないんだね、運がよかったんだ、そっか、じゃあ教えてあげるよ、教えられる範囲で」女がニヤリとする。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1609z/>

---

世界の終わりそしてはじまり

2011年12月5日20時53分発行